

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立玉川中学校

- 厚木市教育委員会の基本目標
- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
  - 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
  - 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 倉橋 一久

学校教育目標	学校経営の方針
明るく: 共に支え合う明るく人間性豊かな生徒を育成する 正しく: 正しい理解と適切に判断し行動できる生徒を育成する 逞しく: 自己の未来を切り拓く逞しい心と身体を育成する	(1)一人ひとりの生徒を大切にする教育の確立に努める (2)各組織のチーム力を生かした学校運営の充実を図る (3)学校評価を生かした組織的・継続的な教育活動の改善を推進する (4)学校・家庭・地域の連携・協働による学校づくり、「社会に開かれた教育課程」をめざす (5)小中一貫教育を推進し、9年間の「学び」と「育ち」の継続性を図る

今年度の重点目標

- 1.「生きる力」を育むため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの力をバランスよく育む。
- 2.生徒の主体的な取組を推進する生徒会活動の活性化
- 3.いじめ防止基本方針を軸にした生徒理解・生徒支援・生徒指導の充実
- 4.保護者・地域からなる学校運営協議会、CSの活動の充実
- 5.安心、安全な環境づくり及び防災意識の啓発
- 6.人権意識の高揚、福祉教育の充実、インクルーシブ教育の推進(みんなの教室の活用)
- 7.健康と命の教育の推進
- 8.主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と学習評価の実践
- 9.GIGAスクール構想のもと、ICT機器の効果的な活用についての研究の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「生きる力」を育むため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの力をバランスよく育む指導方法の工夫と改善	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自習室の開室(かわせみ学習室)</li> <li>・話し合い、教え合い活動の充実</li> <li>・定期試験前の学習会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの教科担当が授業形態や使用する教材を工夫した。GIGAスクール構想のもと、クロームブックを活用しての授業工夫に今年度も全職員で取り組み、校内で研修を重ねた。生徒の学校評価への回答では、「わかりやすい授業」の項目に今年度も92%の生徒が肯定的な回答をしている。</li> <li>・家庭学習の習慣が身に付いてきたかの質問が、令和4年度71%→令和5年度85%と大幅に改善。</li> <li>・自習室の開設、定期試験前の学習会などで、学習機会を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自習室(かわせみ教室)を、できるだけ多く開室し、活用を促す声かけなどの取組を行う。</li> <li>・試験前の生徒の自主的な学習に対し学習会での支援を継続する。</li> <li>・校内の研修により、職員全体の授業力の向上を図る。</li> </ul>
生徒の主体的な取り組みを推進する生徒会活動の活性化	1・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自主的な活動を支援する場面を増やしていく。</li> <li>・生徒の話し合い活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「体育大会・文化発表会ではクラス団結して自主的・意欲的に活動できたと思いますか？」という質問に対しては、約97%の生徒が肯定的な回答をしている。</li> <li>・委員会活動、部活動においても、できる範囲において生徒の話し合い活動や自主的な活動ができる環境をそれぞれの担当が意識して取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、生徒主体の取組を促し、充実感・達成感を味わわせる機会を充実させる。</li> <li>・各活動のねらいや目標を明確化し、それに向けた職員間の情報共有の充実を図る。</li> </ul>

生徒理解・生徒支援・生徒指導の充実	2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的(週1回)の生徒支援、生徒指導に関する情報交換の時間を設定し、内容の充実に努めた</li> <li>・支援の必要な生徒の個別支援計画の作成</li> <li>・生徒指導支援グループメンバーを中心とした、支援体制とケース会議の充実</li> <li>・積極的な生徒指導を心がけた</li> <li>・生徒指導担当を中心に、職員への情報共有を心がけた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も「いじめ防止」にむけての取組を継続して行うことができた。生徒たちは真剣に討議し、誰もが安全、安心して生活できる学校づくりのための目標を、それぞれの学級で立てることができた。</li> <li>・SCや元気アップアシスタントとの連携を図り、支援の必要な生徒に対してのきめ細かな支援体制をつくった。</li> <li>・週1回の指導部会・支援部会において、学年間の連携を図りつつ、適切な指導を心がけた。</li> <li>・「教育相談」「生活ノート」「月の反省」などを通して、生徒とのコミュニケーションを図り、生徒理解につとめた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回の生徒指導部会、支援部会の継続</li> <li>・年3回の生徒指導支援研修会の実施を継続</li> <li>・生徒指導担当を中心にした情報共有と素早い対応を心がける</li> <li>・道徳、学級活動を通して、「いじめ防止」の取組のを継続</li> <li>・各学期はじめの教育相談に加えチャンス相談の充実により、生徒理解を向上させる</li> <li>・月の反省の継続。その後の対応を素早く行うことを徹底する</li> </ul>
地域、保護者との連携、コミュニティスクールの運営	1・2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育の充実</li> <li>・地域指導者との連携と地域行事への積極的な関わり</li> <li>・ホームページや学校だよりなどで、学校の様子を地域へ発信</li> <li>・PTAとの協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区小学校との連携を図り、小中一貫教育をコロナ前の状態にもどして活動することができた。</li> <li>・森の里中学校区を含む5校連携した防災訓練を実施</li> <li>・職場体験学習は、今年度は2日日程で実施できた。学校運営協議会と連携し、体験先を決め、地域との関わりを保つことができた。</li> <li>・「かわせみ応援団」という保護者による学校応援組織と連携して、今年度も教室のドアのペンキ塗りを実施することができた。また、例年実施している、PTA除草作業も継続して行うことができた。新たに、3年生の卒業前の奉仕作業にも参加していただき地域との関わりを持つことができた。</li> <li>・PTA活動の見直しを行い、委員数、会議の回数の削減を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールの充実した運営</li> <li>・小中5校が連携した防災訓練の継続</li> </ul>
安全な環境づくりと防災意識の啓発	2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マニュアルを生かした安全体制の確立</li> <li>・無通告の防災訓練や、逃げ遅れた生徒がいる想定 of 訓練を行った</li> <li>・日々の清掃活動の充実</li> <li>・教科横断的な学びによる安全意識の向上</li> <li>・毎日の下校指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練については、随時真剣に取り組み、それぞれの状況における行動パターンを学習することができた。</li> <li>・基本、1日おきの清掃活動を実施。</li> <li>・普段の授業や、日々の出来事から安全についての指導の機会を逃さず行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の継続した実施と、マニュアルの見直し</li> <li>・不審者対応訓練と安全指導の充実</li> <li>・日常の防災関連の点検の充実</li> <li>・清掃活動、緑化活動の生徒の自主的活動の推進</li> </ul>

人権意識の高揚とインクルーシブ教育の推進	2・3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権週間のポスター掲示</li> <li>・インクルーシブ教育の実践と取組</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権週間には人権コーナーを設置し、掲示で啓発を行った。日ごろから各場面において、人権について考えさせる環境づくりが必要だと感じる。</li> <li>・リソースルームを活用できた。インクルーシブ教育担当の非常勤講師による個別支援及び教室支援を充実させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中での人権意識を高めるための工夫の継続</li> <li>・「性的マイノリティ」への理解を図ることを継続。</li> <li>・校内人権週間の継続</li> <li>・いじめ防止の取組の継続</li> </ul>
GIGAスクール構想のもと、ICT機器の効果的な活用についての研究の推進	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器(クロームブック)の活用法の研修と実践を継続できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、各教科でどのようにクロームブックを活用できるのかなど、校内研修で取り組み、わかりやすい授業の向上に努めることができた。ただ、教科によって、教員の技量による差があるため、今後も研修の継続が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修などで、教員側のICT活用能力のさらなる向上、研鑽を目指す。</li> <li>・推進校などの参考となる実践についての情報を収集し、校内で参考にする。</li> </ul>

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

今年度は学校運営協議会を開催し、報告を行うことができた。今年度の学校の教育活動に対して御理解いただけた。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

学校評価の生徒アンケートでは、「充実した学校生活を送れているか」という項目に約93%以上、「わかりやすい授業」の項目には約92%、「行事に自主的・意欲的に活動できたか」という項目には約97%、「仲間と安心して生活できる学校か」の項目には約92%の生徒が肯定的な回答をし、生徒は概ね、学校生活に充実感を得ることができていると考えている。

「安心して生活できている」の項目は、肯定的な回答が令和4年度約88%→令和5年度約92%まで向上したが、少しでも高い数値を今後も目指す。「嫌な思いをしていることがあるか」の項目では、ないと回答した生徒が約87%で、約13パーセントの生徒が何らかの形で嫌な思いをしていることがあるということになる。この回答を見逃すことなく、教育相談や声かけなどを充実させ、生徒の不安をいち早くキャッチし、改善に向けてチームで関わっていけるようにしていく。一人でも多くの生徒が安心して学校生活を送っていけるようにしていきたい。